

サルコペニア 温故知新

—低栄養からフレイルまでを展望する—

超高齢社会に突入した日本において、狭義では筋肉量減少と定義される「サルコペニア」が老年医学、リハビリテーション、栄養、看護など医療のさまざまな分野で重要なテーマとして取り上げられることが多くなった。口腔のサルコペニアは、摂食嚥下障害や全身のサルコペニアとも関連して低栄養やADL（日常生活動作）低下の引き金となり、さらに身体機能ばかりか精神機能や社会性までも脅かしながら要介護状態に陥る前段階とされるフレイルにつながる大きな要因の一つとなっている。今後も急速に高齢化が進行する日本においては、古くからあるサルコペニアという概念が「フレイル」という新しい概念と出会い、高齢者医療・介護を考えるときにますます重要なテーマとなるであろう。これらの背景から、歯科においても口腔とサルコペニア、フレイル、摂食嚥下障害などの関連についても整理する必要があると考え、本特集を企画した。

まず、筆者による冒頭の論文ではこれらの概論と、日常歯科臨床のなかでのとらえ方や症例をまとめた。さらに口腔のサルコペニアと摂食嚥下障害の関連を糸田先生に、全身のサルコペニアと「食べる」という観点からの解説を藤原先生に、そして松尾先生にはフレイルも含めて摂食嚥下障害との関連を幅広い視点から解説していただいた。

(藤本篤士)

1. サルコペニアの基本的な考え方と歯科

藤本篤士 Atsushi Fujimoto

2. 口腔のサルコペニアと摂食嚥下障害

糸田昌隆 Masataka Itoda

3. 全身のサルコペニアと「おいしく食べること」

藤原 大 Dai Fujiwara

4. フレイルとサルコペニア

松尾浩一郎 Koichiro Matsuo